

おほどものすくねみより、わか別れを悲しぶる歌一首

六九〇番

照る月を 闇に見なして 泣く涙 衣濡らしつ
乾す人なしに

おほどものすくねやかもら 大伴宿禰家持、娘子に贈る歌二首

六九一番

ももしきの 大宮人は 多かれど 心に乗りて
思ほゆる妹

六九二番

うはへなき 妹にもあるかも かくばかり 人の
心を 尽くさく思へば